

いしや先生

町おこし映画週末記

あべ 美佳

角的に組織を機能させるための作戦……きつとそうだ。町の未来がかかって

先月、始まったばかりの「町おこし映画週末記」大井沢村（現西川町）で活躍した医師志田周子（共鳴した人々が集まり、お金のなげ無いとこから、前回の紹介した「感動の発足式」まで辿り着いた）の「軸」が異動してしまう。我々の狼狽ぶり、想像できますか？

官民一体覚悟示すとき

このタイミンングで？ ああ、どげすつべ……この町おこし映画プロジェクトは、決して大げさな言い方ではなく、その担当



でも少し経って落ちつく導くというところは冗談抜きで命懸け。だからこそ、何事にも揺るがぬ強い信念を

となつて動いていくものな思い起せば、東京の製作部の製作陣が担えば、もう満帆ではありませんでし……でも、です。官民一体となつて進める重ねてきたのです。我々はこの「町おこし映画」今ゼロからイチにしてくれたこそ、それぞれの覚悟を示すときだろう。映画作りには積み上げてゆくことが官の常識は通用しない。民のやり方を押し付けるつもりもない。けれど、民と官、負けず劣らず熱い方だそう両者の間に粘り強く立ってくれる人がいたから、なんかこここまで来られたといふことだけは忘れないで進みたい。簡単に動かしてはいけない「コト」と「タイミンング」があるということ。2011年7月18日、私に初めて大井沢の地を踏んだ。その日は特別な日だった。なぜなら……それは、初めにお会いしたのは（脚本家・作家、尾花沢市出身）

文化

11月1回掲載します